

CPC-CBT(親子複合型認知行動療法)研修

身体的虐待のリスクが高い家族への認知行動療法的支援

主催：TF-CBTラーニングコラボティブ研究会

CPC-CBTとは?

親子複合型認知行動療法(Combined Parent-Child Cognitive Behavioral Therapy : CPC-CBT)は、心的外傷を受けた子ども、および子どもを身体的に虐待した養育者双方のニーズに対応した短期間の治療プログラムです。

CPC-CBTは、身体的虐待がすでに起こった家族に対する介入のみならず、身体的虐待のリスクがある家族に対する予防プログラムとしても、その効果が実証されています。

CPC-CBTのセラピストは、養育者が前向きな家庭環境を作り出し、子どもたちを楽しませ、そして親であることを楽しめるように手助けをします。CPC-CBTの目標は、子どもが虐待的な経験のトラウマから回復するのを手助けすること、暴力に頼らない子育てができるよう養育者を支援すること、親子の絆を強めること、そして家族全員の安全性を高めることが含まれます。

CPC-CBTの成り立ちや構成要素について

養育者と子どもの関係をよりよくする方法 etc...

受講資格

医師、臨床心理士、公認心理師、子どもとその親に対する支援の行う臨床家(精神保健福祉士、社会福祉士、保健師、看護師など)、社会的養護が必要な子どもの支援を行う方

日時 ▷▷▷ 2025年5月30日(金)～6月1日(日)
9:30-17:30
(終了時間は多少前後することがあります)

会場 ▷▷▷ 明治大学

定員 ▷▷▷ 60名

受講費 ▷▷▷ 会員 41,000円
(講座40,000円、資料1,000円)
非会員 44,000円
(講座43,000円、資料1,000円)



研修に関するお問い合わせ

お申込みはPeatixで ▷ <https://cpccb2025.peatix.com>
その他はメールで ▷▷▷ info@tf-cbtlc.com

CPC-CBT(親子複合型認知行動療法)研修

身体的虐待のリスクが高い家族への認知行動療法的支援

主催：TF-CBTラーニングコラボティブ研究会



講師紹介

Melissa K. Runyon 博士

メリッサ先生は、トラウマの評価と治療、ならびに子ども虐待と暴力の影響について専門的な訓練を受けた、児童臨床心理学者です。メリッサ先生は、故郷のケンタッキー州に戻られるまでの16年間、ローワン大学オステオパシー医学部内にある、児童虐待研究・教育・サービス研究所（CARES）において、治療部門のディレクターや精神医学の教授として勤められました。CARESはCPC-CBTやTF-CBTが開発された場所でもあります。メリッサ先生は、TF-CBTの共同開発者であるデブリンジャー博士と共に、身体的虐待のリスクがある、もしくは身体的虐待の事実が認められた子どもやその家族が有する多面的な問題に対処するためにCPC-CBTを開発しました。メリッサ先生は、CPC-CBTおよびTF-CBTの実施において、治療者・治療責任者・スーパーバイザーとして従事されたほか、アメリカの国立精神衛生研究所(NIMH)では主導的役割を担われ、CPC-CBTに関する研究やトレーニングについて幅広い経験をお持ちです。子ども虐待やトラウマの分野でご著書も多く出版されており、CPC-CBT治療マニュアルおよび性的虐待を受けた子どもへのTF-CBTの適用に関する本の共著者でもあります。

また、メリッサ先生は過去15年にわたりCPC-CBTの普及に尽力されてきました。日本においても2019年からCPC-CBTの研修などを行っておられます。

この度、コロナ禍でのオンライン研修を経て、久しぶりに来日されての対面研修です。是非この機会にご参加ください。

研修に関するお問い合わせ

お申込みはPeatixで ▷ <https://cpccb2025.peatix.com>
その他はメールで ▷▷▷ info@tf-cbtlc.com

